

Rainbow color communication



にじいろ通信

つうしん

一人はみんなのために みんなは一人のために




国分城山公園から見るの錦江湾の夕景

CONTENTS

- P2 総看護師長 挨拶
- P3 研修医紹介・研修を終えて
- P4・P5 対談シリーズ「当院の呼吸器外来について」
- P6 部門紹介～居宅介護支援事業所～
職員紹介～血液浄化療法室～森 純子
- P7 霧島市救急カンファレンスの取り組み
第1回地域連携室学習会を終えて
- P8 内科紹介患者の予約受け入れについて(お願い)



 鹿児島医療生活協同組合
国分生協病院

総看護師長
あいさつ
message



地域とともに歩む
～看護の役割について～



総看護師長
橋口 京子

「チーム医療を推進し、安心して在宅へ」

当院は、この地で医療活動をはじめて35年になります。外来は内科・外科・小児科を中心に、1日平均250名の方が受診され、月平均160名の患者様の入院を受け入れています。近年高齢化社会が進み、入院患者様の生活背景は、独居・老々介護など様々です。入院をきっかけに身体状況が変化し、在宅での生活が困難な方が増えています。看護部では、退院支援看護師を配置し、入院時より退院に向けた取り組みを行っています。受け持ち看護による「退院支援スクリーニング」を活用し、身体的・精神的・社会的ニーズを把握し、各職種が参加し介護連携会議を開催し、何よりも「本人、家族の思い」を尊重し、それを実現できるように看護実践を行っています。必要に応じて介護保険の代行申請・在宅生活が困難な方は介護関連施設の申し込みなどを行います。地域包括ケアの推進が進められる中、一つの病院や施設・事業所で全てのことが解決できることは少なくなり、当該地域あるいは近隣地域での医療連携がとても重要になっています。地域にある、各医療機関、施設などと、それぞれの得意分野・不得意分野を理解しながら、地域丸ごと「チーム医療」という考え方で連携することが必要ではないでしょうか。患者様、利用者様の望む暮らしを支えるための支援が、その方がどんな状態であっても、「チーム力」で、解決していきたいと考えています。今年度第1回の「地域連携学習会」を開催し、多くの方に参加をいただいています。私たちの看護部理念は、「患者様の人権を尊重し、自立・参加・協同の看護・介護を実践します」の理念のもと、今後も、あきらめることなく、ひとりひとりとの関わりを大事に、安心して在宅へ帰れるように、今後ともよろしく願いいたします。

地域を守る医師を目指します

研修を終えて



坂元 優一郎

1. 出身地

鹿児島県曾於郡大崎町 研修医 1 年目

2. 国分での研修内容

腎臓・透析を中心に、内科の研修をさせていただいています。

3. 研修中大変だったこと

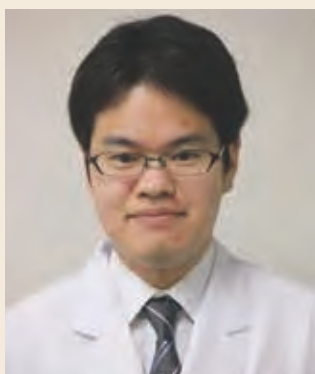
患者さんの状態が変わった際に自分一人では対応が分からず指導医の先生に一つ一つ確認を行いながらになってしまいました。医師としてこれから成長していかなければならないと強く感じさせられました。

4. 印象に残っている出来事

国分の夏祭りです。祭りに参加して踊るのは初めてでしたが、とても楽しく印象に残っています。

5. 国分生協病院の印象・感想

国分の雰囲気や仕事にも慣れてきたところで離れてしまうことがとても残念です。先生や看護師さん、リハビリの方々など全ての職種の方からたくさんのことを学ばせていただきました。研修医 1 年目ということで医師としてまだまだ未熟な自分でしたが、1 年目の最初の時期を国分生協病院で研修することができ本当に良かったと思っています。国分はスタッフ間の距離が近く、とても働きやすい雰囲気だと感じました。また、他の職種の方とも実際に関わる中で、相談し合いながら患者さんのことを診る環境は国分ならではのと思いました。3 ヶ月という短い期間でしたが、本当にありがとうございました。



谷本 隆彦

1. 出身地

岡山県倉敷市 研修医 1 年目

2. 国分での研修内容

内科研修で呼吸器を中心に幅広く内科疾患の患者さんを担当しています。病気の治療だけでなく退院後の生活をどうするかまで考えることを学びました。

3. 研修中大変だったこと

医療不信があって心を開いてくれず診察拒否される患者さんにどう接して良いか分からず困ったことがありました。

4. 印象に残っている出来事

夕方ごろ救急搬送され入院した患者さんの検査や治療について夜遅くまで指導医の先生に教わりながら勉強し、終わった後にご飯に連れて行っていただいたことが思い出に残っています。

5. 国分生協病院の印象・感想

鹿児島よりも病院の規模が小さい分各部署のスタッフの顔や名前を覚えやすく、相談しやすかったですし、実際に連携もよく取れているように思いました。看護部、リハビリ、検査、事務、居宅などいろんな部署の方々に教わりながら、一人の患者さんを診るのに多くの人たちが関わっていることを改めて実感しました。研修の初期の間にこのような環境で勉強させていただけたことは今後の自分にとって大きな意味があると思います。患者さんや周りの方々に多くのことを教わりながら、大きく成長した 3 ヶ月間だったと思います。皆さまと一緒に働くことができ楽しかったです。ありがとうございました。

院長

山下 義仁

アレルギー学会専門医・指導医もおり、
喘息・アレルギー、肺高血圧症等にも
力を入れています



山下・淵ノ上：地域の先生方、こんにちは。かねてからの患者様のご紹介、誠にありがとうございます。今回は私たち呼吸器内科の医療活動をご紹介しますと思います。



肺機能検査の様子

淵ノ上：当院での呼吸器の医療活動は意外に古いのですね。

山下：当院は1982年に開設し、1987年には呼吸器内科の医師を配置しました。特徴的な医療活動として、1988年にそれまで東北から北海道にしかないと言われていた農夫肺を南九州で初めて診断したり、1993年ごろからじん肺の診断や労災申請に取り組んだりしてきたことが挙げられます。現在私たちは、市中肺炎や院内あるいは施設関連肺炎、急性胸膜炎、肺結核や結核性胸膜炎、非結核性抗酸菌症、気管支喘息や慢性肺気腫・慢性気管支炎、DPB、過敏性肺炎や急性好酸球性肺炎、膠原病肺や特発性間質性肺炎、サルコイドーシス、肺がん、睡眠時無呼吸症候

群、気胸、じん肺や石綿関連肺疾患などを診療しています。

淵ノ上：今、医師が3名いますが、それぞれの役割を教えてください。

山下：まず、樫田祐一医師ですが呼吸器学会専門医・指導医であり、アレルギー学会専門医でもあります。農夫肺を診断しました。呼吸器全般をはじめ、喘息・アレルギー、肺高血圧症等も特に力を入れています。火、金曜午前の呼吸器予約外来を担当しています。二番手は私ですが、呼吸器全般に加え、じん肺、石綿関連疾患なども診ています。また、気管支鏡検査を担っています。月曜午前と金曜午後、隔週の土曜午前の呼吸器予約外来を担当しています。三番手は大久保千香子医師です。呼吸器全般に加え、呼吸不全、在宅医療を担い、気管支鏡検査も担っています。水曜午前と火、木曜午後の予約外来を担当しています。



呼吸器会議の様子

MRI機器の導入を行い、 呼吸器全般の診療に対応します



リーズ 吸器外来 について

呼吸器グループ
看護師
淵ノ上めぐみ

淵ノ上：外来診療をもう少し具体的に話してもらえますか。

山下：本年5月の時点で喘息、COPD、間質性肺炎等で508名が外来に通われています。本年6月で在宅酸素療法患者は42名、在宅人工呼吸療法ではTPPVが3名、NPPVが6名です。睡眠時無呼吸症候群でCPAP利用者は本年7月で111名、ASVは4名です。じん肺で労災認定患者は14名、じん肺健康管理手帳利用者は5名、石綿健康管理手帳利用者は15名です。昨年1月から10月までに病理診断できた肺がんの方は12名でした。現在外来でEGFR-TKIを処方している方が2名います。新病院では化学療法室を設けますので、外来化学療法を行っていく予定です。

淵ノ上：では、どのくらいの検査が行われているのでしょうか。

山下：ちょっと古いデータですが、昨年1月から10月までの期間で、胸部CTが2248件、肺機能検査が765件、気管支内視鏡検査が54件でした。CTはGE社の64列です。CT撮影だけでもお受けしますのでご紹介ください。肺機能検査は拡散能まで測定が可能です。気管支内視鏡はOLYMPUS社のP260電子内視鏡です。毎週木曜の午前に、観察や生検、気管支肺胞洗浄も行っています。ほかに簡易睡眠モニターは月、火、木、金曜に外来で、PSGは月、木曜に一泊入院で実施しています。

淵ノ上：いよいよ11月からは新病院へ移転しますが、

呼吸器診療に新たな変化がありますか。

山下：まず1.5TのMRIが入りますので、肺がんの転移検索が容易になります。喘息ではアレルギー炎症の指標である呼気NOの測定機器を導入します。また、簡易睡眠モニターも指先と体位のセンサーだけの機器を導入予定です。さらに禁煙外来も検討中です。



気管支鏡検査の様子

淵ノ上：入院診療にも少し触れてもらえますか。

山下：現在、挿管による人工呼吸器を5台、NIVを3台有しています。このうち1台はARDSの際にAPRVというモードを設定することが可能です。

山下・淵ノ上：これからも地元の先生方の期待に応えられる一次から二次の呼吸器診療に対して、質を上げながら取り組んでいきたいと思っております。よろしく願い致します。

部門紹介



居宅介護支援事業所～本人や家族の思いを総合力で支えます～

当事業所は2000年の介護保険開始に伴い、居宅介護支援事業が開始になりました。現在、主任ケアマネ1名と介護支援専門員5名の計6名で業務にあっており、1ヶ月のケアプラン数は予防給付と介護給付を合わせ、約180件程です。

高齢化社会に伴い、1人暮らしの方や老々介護の世帯も増えており、様々な困難事例への関わりも増えてきました。その方が住み慣れた地域で望む暮らしが続けられるよう、利用者様に寄り添いながら支援させて頂いています。また、病院を退院される患者様が、安全に安心して在宅復帰できるよう、医師・地域連携室・退院支援看護師・病棟看護師・リハビリなど他職種と連携しながら、チーム医療を重視し、専門性を発揮しています。必要に応じて、地域包括支援センターや行政等とも連携しながら対応しています。

新築移転後は、同じフロア内で居宅と訪問看護と訪問介護が仕事をするようになり、事業所間での連携がよりスムーズとなります。「本人や家族の思い」を総合力で支えていきます。介護でお困りのことなど何かありましたらご相談ください。明るく頼りになるスタッフが対応させて頂きます。よろしくお願い致します。



職員紹介



～腎不全患者さんを支えて～

血液浄化療法室 森 純子

慢性腎臓病（CKD）は全国で約1330万人（成人の8人に1人）と推計されており、新たな国民病といわれるほど身近な病気です。進行して慢性腎不全になり、透析をうけている人は全国で約32万人（国民400人に1人）います。さらに心筋梗塞や脳卒中などの危険が約3倍高まることがわかってきています。CKDは、早期に発見し、生活習慣の改善や薬物療法等の適切な治療をすることで、悪化を防ぐことができます。

透析導入原因の第1位は糖尿病で、糖尿病足病変はちょっとした足のトラブルで下肢切断に至ることもあり、さらに透析患者さんは末梢動脈疾患を合併して足病変が重症になりやすいため予防的ケアと早期発見・早期治療が大切です。

当院の透析室は、入院が必要な重症の透析患者も多く、また腹膜透析も行い地域との連携も積極的に行っています。

これからも腎不全看護、フットケアの研修で得た知識をスタッフと一緒に取り組んでいきたいと思ひます。



<プロフィール>

- 1981年 鹿児島医療生協市民病院（現鹿児島生協病院）入職、紫原クリニック、鹿児島生協病院外来・病棟・透析室、谷山生協クリニック血液浄化療法室を経て、2014年11月国分生協病院へ赴任。現在、血液浄化療法室で勤務。
- 1999年 看護管理者研修（ファーストレベル）終了
- 2004年 介護支援専門員取得
- 2010年 透析療法指導看護師認定（2015年更新）
- 2017年 フットケア指導士認定を取得。

第18回 霧島救急カンファレンスを開催しました ～小児科医療の改善、前進のために～

2007年より霧島市消防局・霧島市医師会医療センターそして当院の3者で定期的に救急合同カンファレンスを開催してきました。2010年より地域ぐるみで救急医療の向上や、顔の見える連携をより深めようということで、霧島・始良地区におけるすべての救急告示病院へも参加を依頼し、名称を新たに「霧島救急カンファレンス」と称して開催してきました。

今回、当院が主幹で2か月前よりテーマや事例を検討し、準備を行ってきました。その中で、小児救急医療について組織的に考えてもらう材料にしてもらいたいという思いで「小児救急医療」をテーマにすることを決めました。かつ、霧島の小児救急医療の報告を聞き、小児救急医療の現状を知る機会とすることを獲得目標とし、2017年6月14日に開催し、136名の参加がありました。当院小児科の酒井医師より「当院が関わった小児時間外救急の現状報告」、霧島消防局からは「小児救急の現状」、霧島市立医師会医療センターの小児科医より「開設1年を迎えた小児診療状況」の報告いただきました。現在15歳未満の小児が1万8千人います。それぞれの報告により、医療に携わる職員が小児科救急医療に共通理解を持ち、地域での小児科医療の実態を情報共有する機会となりました。また、行政や医師会からの参加もあり、小児科医療の体制作りが課題であることを述べられました。

今後の小児科医療の改善や前進につながるとよいと考えます。



第1回地域連携学習会～地域ネットワークを心不全治療でも活かす～

2017年6月28日（水）に、第1回地域連携学習会が開催されました。7医療機関7施設から、計61名の方々に参加して頂きました。

内容としては、「心不全」をテーマに、①心不全治療に関して（吉見医師）、②心不全管理について（白坂呼吸器認定看護師）、③心不全治療で行うリハビリについて（吉野呼吸器認定理学療法士）、それぞれ講演を行いました。

参加者の方からも、「多職種、地域との情報共有、開示、連携をとることで、医療の質の向上につながると実感出来た」など多くの感想を頂きました。

今後も定期的な学習会開催を行い、地域の医療機関、施設等の方々と顔の見える連携作りを構築していきたいと思っております。当院との連携の程よろしくお願ひします。



当院の内科紹介患者の受け入れに関してのお願い

国分生協病院 院長 山下義仁

先生方からの当院内科外来への御紹介に際し、スムーズな受け入れのために、以下の予約による御紹介をお願いしたいと考えております。予約可能な方は、下記の専門外来に電話予約をお願い出来れば幸いです。

内科外来体制表 国分生協病院

2017年9月現在

		月	火	水	木	金	土	
午前 8:45~11:00	一般外来	内 科	榎田祐	吉 見	榎田祐	榎田祐	交 替	榎田祐
	専門外来	循 環 器	吉 見	柴 田	吉 見	吉 見		※吉見(不定期)
		呼 吸 器		榎田祐	隈 元		榎田祐	
		消化器・肝臓			長 谷	小坂元	長 谷	長谷(第2のみ)
		腎・膠原病	前 村	上 村			上村(隔週)	
		神 経 内 科				田 代		

※学会出張等の都合により変更になる場合があります。詳しくは電話にてご確認ください。



※緊急紹介、入院が必要な方の紹介に関しては、上記体制に限らないので、お電話をお願いします。

※CKDネットワークに関する紹介は、腎臓内科担当医の予約を取って頂くよう、お願いします。

※一般外来は12時まで受付を行っています。

※予約がない場合は一般内科外来担当医で対応させていただきます。

※上記体制表の中の※は、不定期となります。お電話で確認をお願いします。

※当院に受診歴のない患者に関しては、保険情報のFAXをお願いする場合がありますので、ご協力をお願いします。

※不明な点があれば、お電話をお願い致します。

予約・問い合わせ番号 **0995-45-4806**

バス路線案内

(最寄のバス停はいずれも生協病院前)

・福山・垂水方面からお越しになる場合

国分駅行き(いわさきバス)、国分駅行き・鹿児島空港行き(鹿児島交通)のバスに乗車

・国分駅・空港方面からお越しになる場合

萩之元行き・上ノ原遺跡行き(いわさきバス)、垂水行き・鹿屋東笠之原行き(鹿児島交通)のバスに乗車

※国分ふれあいバスも生協病院前バス停で停車します。

